


# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

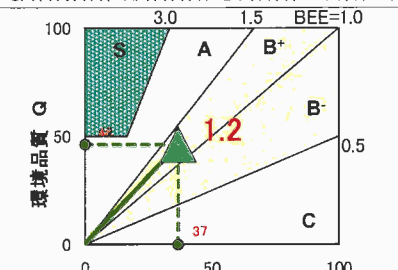
<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)中源石油貸店舗新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府長岡京市	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、第1種住居地域、準	平均居住人員	2,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年7月 予定	評価の実施日	2016年2月25日
敷地面積	3,110 m <sup>2</sup>	作成者	亀井 雅史
建築面積	2,352 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月25日
延床面積	2,330 m <sup>2</sup>	確認者	亀井 雅史



**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)**

BEE = 1.2 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

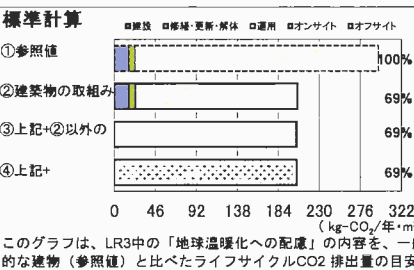


**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超+

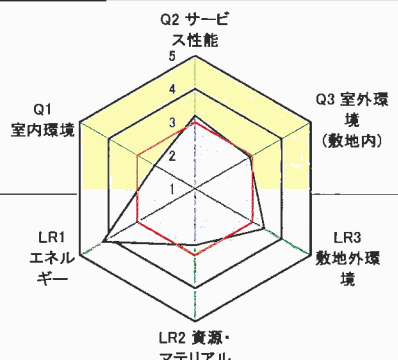
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

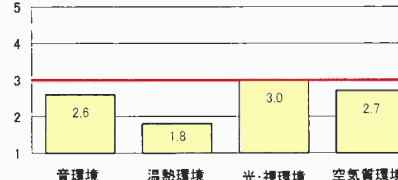


**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質**

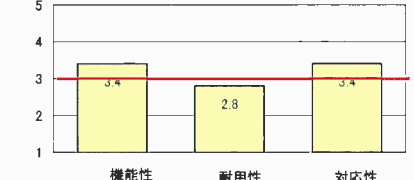
**Q1 室内環境**

Q1のスコア= 2.4



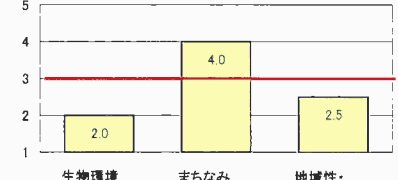
**Q2 サービス性能**

Q2のスコア= 3.2



**Q3 室外環境(敷地内)**

Q3のスコア= 2.9

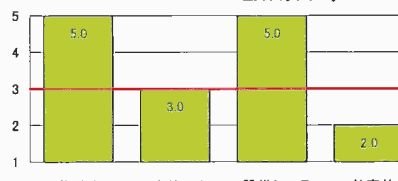


**LR 環境負荷低減性**

**LRのスコア= 3.5**

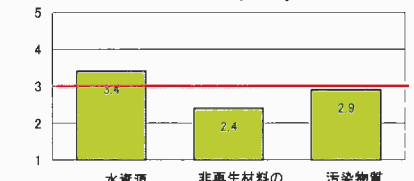
**LR1 エネルギー**

LR1のスコア= 4.2



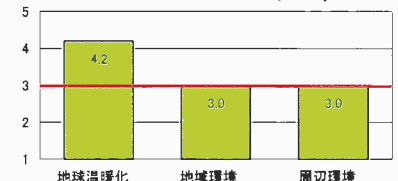
**LR2 資源・マテリアル**

LR2のスコア= 2.7



**LR3 敷地外環境**

LR3のスコア= 3.4



<b>3 設計上の配慮事項</b>		<b>その他</b>
<b>総合</b> LED照明・自動照明制御や節水型衛生器具の利用により、節電や節水に努めた。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 喫煙室を設け、非喫煙者が煙に曝されないように対策を実施している。	<b>Q2 サービス性能</b> 売場の天井高は3.5mで、階高(1-2F)は5.1mである。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化を実施している。夜間照明を設置し、防犯性に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光パネルを設置している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水控に加え、節水型便器を用いている。LGS下地材を使用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> =91%である。『公害対策ガイドライン』のチェックリスト「広告物・照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される